

# 篠浦塾 統合医療の真実

Vol.10

ドクター統合 というのは、最近こんなことがありました。ある患者さんが、他の病院にかかっていたのですが、脳腫瘍がどんどん大きくなってどうしようもないということで、私の病院を知って転院してこられました。覚醒下手術をしてほぼ問題なく脳腫瘍を摘出できたのですが、前の病院でステロイドを長期間投与されていたせいも、手術がうまくいっているにもかかわらず、どんどん弱っていくのです。

そこで私は、篠浦塾で私が学んできた様々な治療のオプションを患者さんとご家族に提案しました。すると、それに対してとても感謝され、前の病院では悪くなってもそのような提案が全くなくて辛かった、と言われたのです。これは、エビデンスレベルの高いことのみをやって、悪くなってもそれ以外は何もしないという医者姿勢では、決して患者さんやご家族のお気持ちを満足させることはできないということを意味します。

私は、たとえ最終的には治らなくても、患者さんがよくなる可能性があるのであれば、エビデンスレベルがいまは低い事でも提案する姿勢が大事だと考えています。また、患者さんのご希望があればそれを行っていくことで、次の世代にも、それらの治療法を必要に応じて改善するなどして良い形でつなげていくことができるのではないのでしょうか。

ミセス右脳 私には、それはとてもよくわかります。治らない病気でも、どのくらい担当して下さるお医者様が一所懸命やってくれたかによって、家族の気持ちは全く違うと思います。医療は結局人と人が関わることなので、エビデンスレベルだけで判断される治療というのは、なにか冷たい感じがしますね。

ミスター左脳 しかしそうは言っても、やっぱり治る確率の高いことが科学的に証明された治療だけを受けさせるのが、家族の真心ではないのかなあ… …。

ドクター統合 そうおっしゃるお気持ちも分かります。ただ、先ほどの話は医者姿勢の問題についてですが、私は西洋医療におけるエビデンスレベルが高いということが、すなわち科学的な観点からみても正しいということなのか、またそのことが本当に安全に患者さんを良くすることに直結しているのか疑問を持っています。

たとえばニンニクは、もちろんランダム化比較試験をしていないので、西洋医療的にいうとエビデンスレベルが低いということになります。しかし、高々数千例で数年間のスタディーしかしていない新薬と比較して、どちらが健康を取り戻すのにエビデンスレベルが高いのかといえどどうでしょうか。

私は、おそらく数年で消えていく薬よりは、何千年もの間何億人もの人々が、病気のときに薬代わりに使ってきたニンニクのようなもののほうが、科学的に考えてもはるかにエビデンスレベルは高い

と思います。ニンニクはあまりにも一般的な食品なので、今更エビデンスレベルを問う必要がない、しかし、だからといってエビデンスが低いという事ではないわけです。

つまり、西洋医療のいうエビデンスレベルは有用ですが、これを金科玉条（きんかぎよくじょう）のように盲信しては、本当の意味では患者さんの役に立たない。そんなことよりも、患者さんがよくなるかどうかという現実を直視して、そのための治療法を患者さんに提示したほうがいいと私は考えています。論文でいうところのエビデンスレベルより、治るかどうかの現実の方が、患者さんにとってのはるかに重要ですからね。